

版籍奉還と廃藩置県

〈読み下し文〉

【史料①】

〈解説文〉

【史料①】

内藤若狭守

今般、版籍奉

還之儀付、深ク

時勢被為察、

広く公議被

為採、政令帰

一之

思食以テ、言

上之通被

聞食候事

六月 行政官

【史料②】

【史料②】

内藤若狭守

今般、版籍奉還の儀につき、深く時勢を察せられ、広く公議を採

せられ、政令帰一の思し召しを以て、言上の通り聞し召され候こと

と

六月 行政官

内藤若狭守

高遠藩知事に仰せつけられ候こと

明治二年己巳六月

〈用語の解説〉

・内藤若狭守：最後の高遠藩主内藤頼直。

・政令帰一：政治上の命令や法令を一つにすること。

・思食（思し召し）：おぼしめし。お思い。お考え。

・聞食（聞し召す）：きこしめす。お許しになる。

・行政官：明治2年、二官六省制で太政官と改称。

明治二年己巳六月

内藤若狭守
高遠藩知事

被

仰付候事

〈解説〉

新政府は戊辰戦争に勝利をおさめ、旧幕府領や幕府側に味方した諸藩の領地を没収したが、それ以外は依然として藩の支配が続いていた。

明治2（1869）年正月、薩摩・長州・土佐・肥前の藩主はそろって版籍奉還を申し出た。諸藩の領地（版）・領民（籍）を天皇に返上するというもので、ほとんどの藩もこれにならった。高遠藩は4月2日に願い出ている。

6月20日、政府はこの請願を許可し、版籍奉還が実現した（史料①）。改めて旧藩主を藩知事（知藩事）に任じて、これまで通り藩政にあたらせた。辞令には太政官印が捺されている（史料②）。

版籍奉還後、行政官は廃官となり、二官六省制のもと太政官に引き継がれた。

藩知事には石高にかわって、その10分の1が家禄として支給され、旧藩主は新政府の行政官吏となつた。藩行政の実務を担う藩士も官吏となつた。

同4年7月、政府は詔書を発して廢藩置県を断行した。これによつて高遠藩は廃藩となり、高遠県となつた。同時に内藤頼直は

藩知事を免職され、11月に高遠県は筑摩県に編入された。旧藩知事には東京移住を命じ、新たに中央から府知事・県令を任命した。

ここに国内の政治的統一が完成された。

高遠県の終焉にともない高遠城は政府としての役割を終えた。早速、廃城の手続きが進められ、翌年2月に新政府の役人へ城が引き渡された。城内の建物や樹木は民間に売却された後、残らず取り扱われ競売にかけられた。東京在住を命ぜられた頼直は、引き渡す前に城内の道具類や調度品、武具などを整理処分する必要があつた。領内の神社に武具を奉納したほか、村役人を務めた役筋の家々などに具足・陣羽織・長柄などを下賜している。

【参考文献】

- ・小松芳郎監修『幕末の信州』郷土出版社
- ・長野県立歴史館編『高遠藩の遺産 最後の藩主が残したもの』
〔令和4年度冬季企画展〕長野県立歴史館